



かつて、竹は、日本人の知恵や工夫、細やかな感性を活かして、私たちの暮らしには欠かせないものでした。

ところが、プラスチック製品や安価な輸入品の増加で、竹林の活用は激減し、放置竹林が拡大、杉やヒノキなど人工林の成育を阻み、獣の温床となり、ますます山林には足を踏み入れる事が出来ないという悪循環を生み出しています。

景観の悪化や倒壊の危険性もさることながら、故郷が荒んでいくのを何もせずに顔を背けているのは、心穏やかにはいられません。

竹灯籠として、厄介者になっている竹に、再び命を吹き込み、人々の暮らしの中で蘇らせる。

それだけでは竹害の根本的な解決には結びつかないけれど、少しでも人々の目を向かせる事で、確実に意識を高め、竹林を含めた自然環境のあり方を考えさせる一石を投じる事ができると信じています。

日々の雑務に追われ、夢や希望をおざなりにしがちな昨今、忘れかけていた日本の和の心と共に、様々な思い出を思いおこして、穏やかな気持ちになっていただけますように…。笑顔と人の輪が広がりますように…。

私たちの思いのタケ、ありっタケを詰め込んだ竹灯籠です。

夕暮れになると、ひとりでに明かりが灯ります。

あなたの心にも **ほ****う** と、あかりが 燐りますように **♥****♥**

